

オープンスペースを活かした健康・スポーツ 都市をつくる

福岡孝則, RLA、Ph.D

東京農業大学地域環境科学部造園科学科
IAKS Japan 代表

March 21, 2024
スポーツ庁



Sports and Health for All

スポーツ・フォア・オール

「市民はだれでも各々が希求するような形式で
スポーツやプレイを行う権利を有する」

—ヨーロッパスポーツ憲章 1975年—

- ・スポーツを通じて生き生きとした、健康で明るい
ゆとりのある社会の創出

#1 Issues: 日本におけるスポーツ施設の現状

#2 Design: オープンスペースをスポーツの場に

#3 Process: 健康・スポーツのつながりをつくる

背景

- Japan: 人口減少と高齢化社会

Fig.1 日本の人口増減

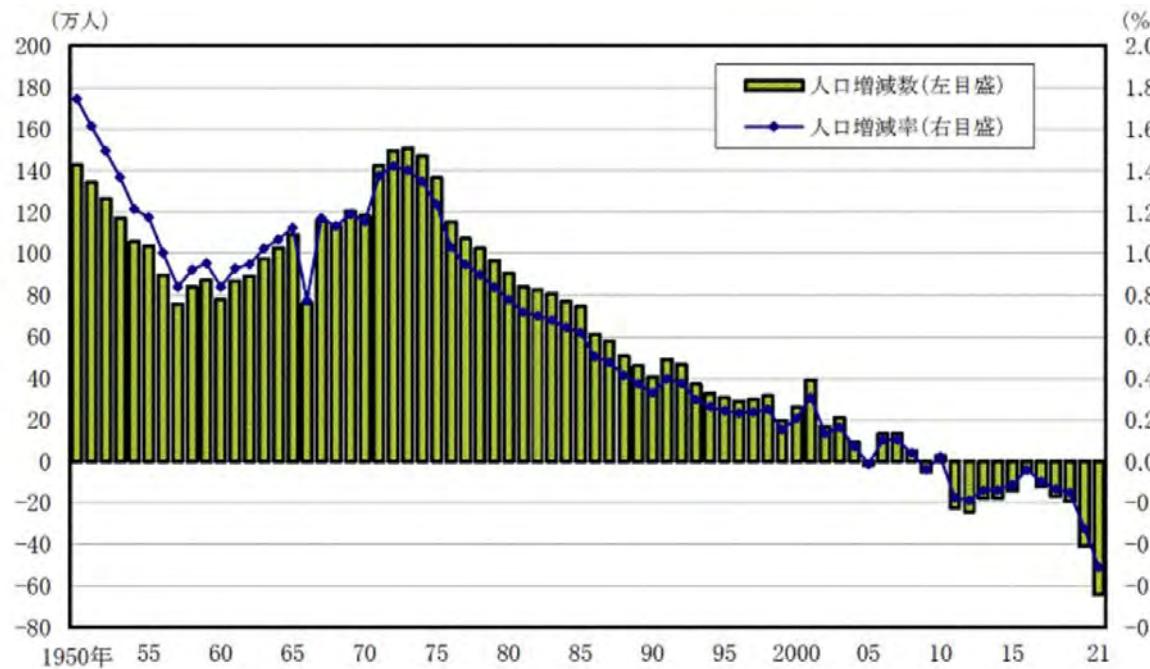
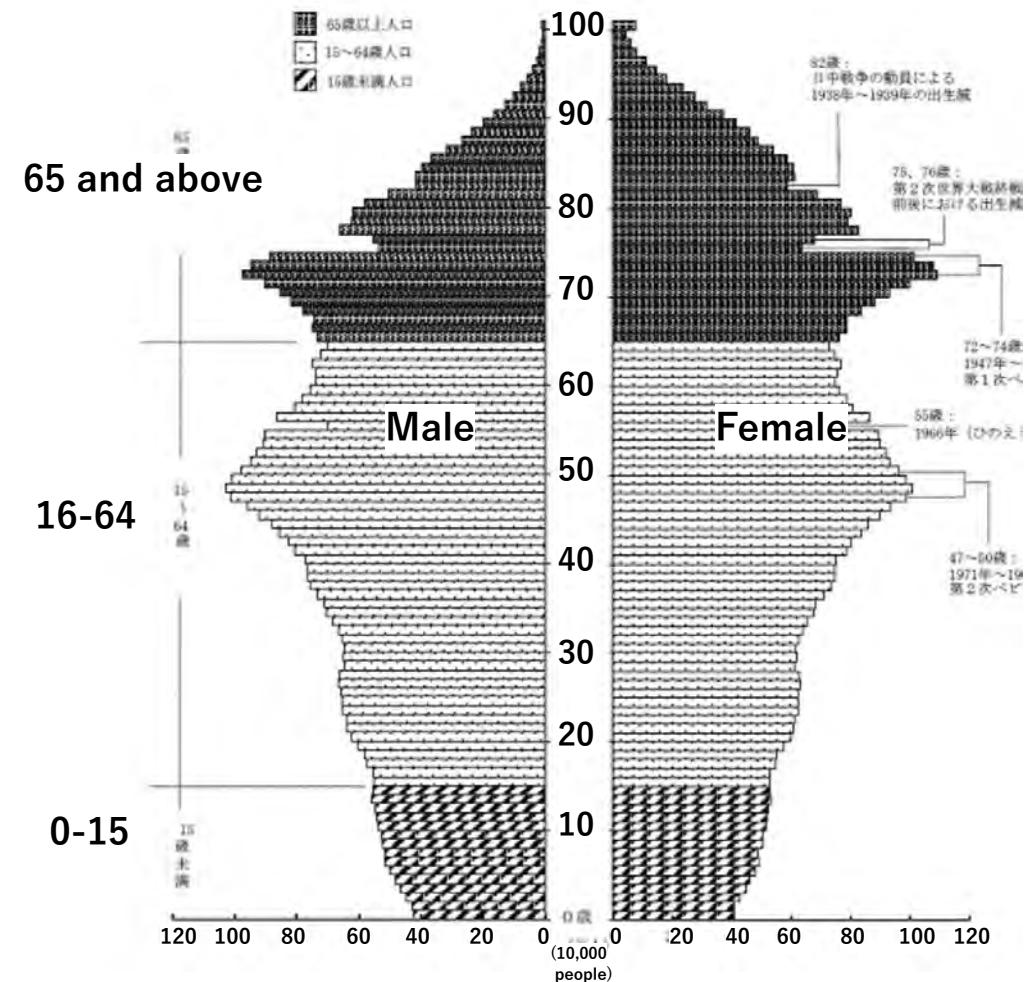
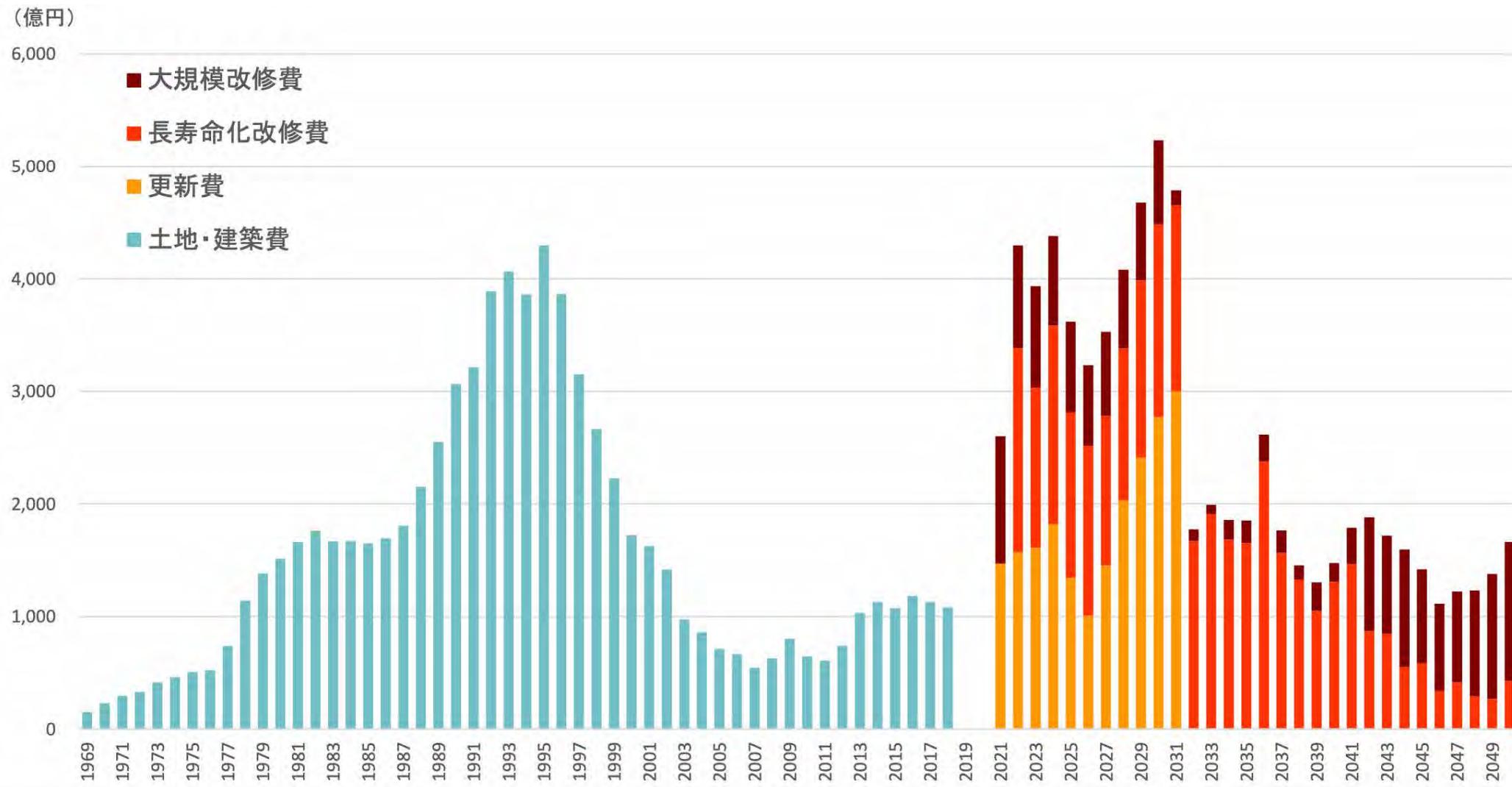


Fig.2 日本の人口ピラミッド



スポーツ施設のストックマネジメントと再整備コスト

- 187,184 : 日本国内のスポーツ施設(29,640 : プール, 41,682 : 体育館, 38,173 : 複合施設)
- Issues: 再整備とマネジメントコスト



老朽化が進み課題が山積みのスポーツ施設

- ・過去16年間に23%のスポーツ施設が消滅
- ・ハード施設の整備や維持に偏重



©<https://mainichi.jp/articles/20210928/ddl/k37/040/438000c>



©<https://kahoku.news/articles/20220617khn00032.html>



スポーツ基本計画（スポーツ庁）では



第3期スポーツ基本計画（概要）

[第2期計画期間中の総括]

- ① 新型コロナウイルス感染症：
 - ▶ 感染拡大により、スポーツ活動が制限
- ② 東京オリンピック・パラリンピック競技大会：
 - ▶ 1年延期後、原則無観客の中で開催

③ その他社会状況の変化：

- ▶ 人口減少・高齢化の進行
- ▶ 地域間格差の広がり
- ▶ DXなど急速な技術革新
- ▶ ライフスタイルの変化
- ▶ 持続可能な社会や共生社会への移行



こうした出来事等を通じて、改めて確認された

- ・「楽しさ」「喜び」「自発性」に基づき行われる本質的な『スポーツそのものが有する価値』（Well-being）
- ・スポーツを通じた地域活性化、健康増進による健康長寿社会の実現、経済発展、国際理解の促進など『スポーツが社会活性化等に寄与する価値』

を更に高めるべく、第3期計画では次に掲げる施策を展開

1. 東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策



持続可能な国際競技力の向上

- 東京大会の成果を一過性のものとせず、持続可能な国際競技力を向上させるため、
 - ・NFの強化戦略プランの実効化を支援
 - ・アスリート育成パスウェイを構築
 - ・スポーツ医・科学・情報等による支援を充実
 - ・地域の競技力向上を支える体制を構築



大規模大会の運営ノウハウの継承

- 新型コロナウイルス感染症の影響下という困難な状況の下で、東京大会を実施したノウハウを、スポーツにおけるホスピタリティの向上に向けた取組も含め今後の大規模な国際競技大会の開催運営に継承・活用



共生社会の実現や 多様な主体によるスポーツ参画の促進

- 東京大会による共生社会への理解・関心の高まりと、スポーツの機運向上を契機としたスポーツ参画を促進
- オリパラ教育の知見を活かしたアスリートとの交流活動等を推進



地方創生・まちづくり

- 東京大会による地域住民等のスポーツへの関心の高まりを地方創生・まちづくりの取組に活かし、将来にわたって継続・定着
- 国立競技場等スポーツ施設における地域のまちづくりと調和した取組を推進



スポーツを通じた国際交流・協力

- 東京大会に向けて、世界中の人々にスポーツの価値を届けたスポーツ・フォー・トウモロー（SFT）事業で培われた官民ネットワークを活用し、更なる国際協力を展開、スポーツSDGsにも貢献（ドーピング防止活動に係る人材・ネットワークの活用等）



スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保

- 東京大会でも課題となったアスリート等の心身の安全・安心を軽かず事態に対応するため、
 - ・誹謗中傷や性的ハラスメントの防止
 - ・熱中症対策の徹底など安全・安心の確保
 - ・暴力根絶に向けた相談窓口の一層の周知・活用

2. スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」を支える施策

スポーツを「つくる／はぐくむ」

社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれず柔軟に見直し、最適な手法・ルールを考えて作り出す。

- ◆ 柔軟・適切な手法や仕組みの導入等を通して、多様な主体が参加できるスポーツの機会創出
- ◆ スポーツに取り組む者の自主性・自律性を促す指導ができる質の高いスポーツ指導者の育成
- ◆ デジタル技術を活用した新たなスポーツ機会や、新たなビジネスモデルの創出などDXを推進

スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う。

- ◆ 施設・設備整備、プログラム提供、啓発活動により誰もが一緒にスポーツの価値を享受できる、スポーツを通じた共生社会の実現
- ◆ スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力による我が国のスポーツ体制の強化
- ◆ スポーツ分野の国際協力や魅力の発信

スポーツに「誰もがアクセスできる」

性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会を実現し、機運を醸成。

- ◆ 住民誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供
- ◆ 居住地或いはかわらず、全国のアスリートがスポーツ医・科学等の支援を受けられるよう地域機関の連携強化
- ◆ 本人が望まない理由でスポーツを途中で諦めることがない継続的なアクセスの確保

#多機能性

#サステナブル

#多様なスポーツ・コミュニティ

#Tokyo2020のレガシー

Active CityやDesignの動きはない

スタジアム・アリーナ **v.s.** コミュニティスポーツ施設？

- ・世界のトレンドは大規模なスポーツ施設（スタジアム・アリーナ）から
より、多様なコミュニティスケールの健康・スポーツ施設へ
- ・コンパクト、多機能、地域性



v.s.



© IAKS sb magazineより転載

Questions

- #1 どこで健康・スポーツに取り組むのか?
(徒歩圏に自由に体を動かせる場所はある?)
- #2 スポーツ施設は社会インフラか?
(スポーツ施設は何のためにあるのか?)
- #3 誰と健康・スポーツを行うのか?
(友達? 家族? スポーツのつながり?)

①健康都市のビジョン-ACTIVE DESIGN（スポーツイングランド）

Active Design

Planning for health and wellbeing through sport and physical activity



October 2015



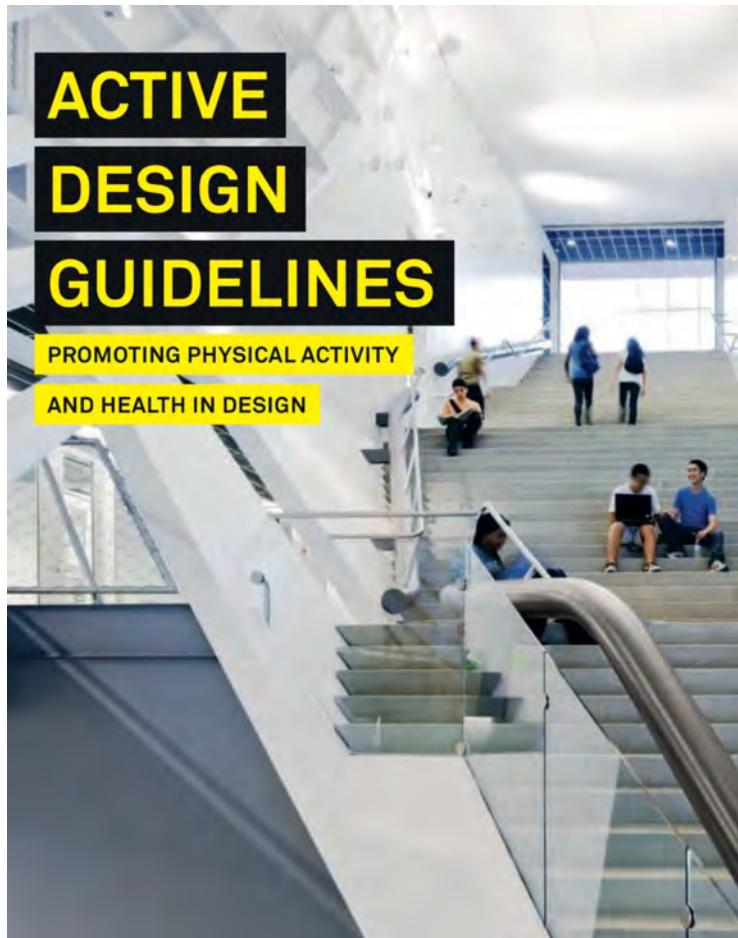
作成 : スポーツイングランド(2015)

特徴 : • 政府外公共機関がイングランド公衆衛生サービス(Public Health England)と協働
• アクティブデザインの10原則を提唱

構成 : (1)イントロダクション
(2)アクティブデザイン10原則
(3)アクティブデザインの使い方
(4)事例 -導入、経過とその効果-

概要 : イングランドでは女性の2人に1人、男性の3人に1人は十分な身体活動を行なっておらず、それらの人々がよりアクティブな日常生活を送ることにより年間74億ポンドの国民健康保険が削減できることを背景としている。積極的な都市・環境デザインから、より活動的で健康的なライフスタイルの形成を目的とし、前半ではアクティブデザインの10原則を説明、後半ではそれらと関連づけて事例を紹介している。

②健康都市のビジョン-ACTIVE DESIGN



出典：ACTIVE DESIGN GUIDELINES, NY市,
<https://centerforactivedesign.org/dl/guidelines.pdf>

アクティブ デザイン ガイドライン ACTIVE DESIGN

作成：ニューヨーク市(2010)

特徴：

- ・市長を中心に分野横断的な検討体制
(建築・デザイン、健康、交通、都市計画の各局と協働)
- ・各章にチェックリストを付属することにより課題や
解決方法を明確化

構成：

- (1)環境デザインと健康-過去と現在
- (2)都市デザイン-活動的な都市を創造する
- (3)建築デザイン-日常的な身体活動を誘発する
- (4)ユニバーサルかつ持続可能なデザイン-相乗効果

概要：都市デザインは市民の健康増進に大きな影響力がある。現在の運動不足・肥満等の健康課題を都市デザインから積極的にアプローチしていくために空間の理論的分析や明確なビジョンを示している。

参考：ニューヨーク市アクティブデザインガイドラインの展開ガイドラインの実装化に着目して
長村 佳子, 福岡 孝則、都市計画報告集

IAKS Study Trip 2023 日本から世界に発信

#コンパクト、多機能性



#暫定空間、インクルーシブデザイン



#Tokyo1964 のレガシー



#オープンスペースの活用



#自然とスポーツ、武道



#サステナブルなスポーツ施設



#1 Issues: 日本におけるスポーツ施設の現状

#2 Design: オープンスペースをスポーツの場に

#3 Process: 健康・スポーツのつながりをつくる

健康都市のモデル-ACTIVE CITY by TAFISA



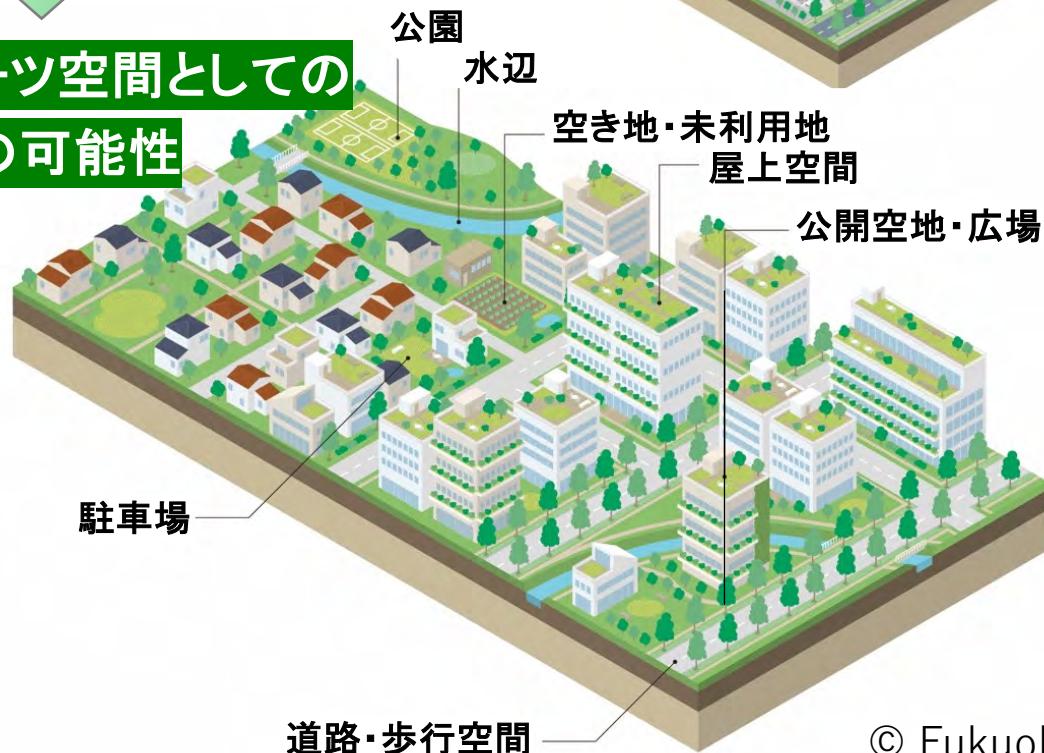
オープンスペースから健康・スポーツ都市をつくる?

- ・都市内のあるるるオープンスペースを健康・スポーツの場に
- ・オープンスペースを基軸に都市の再生・再編集

現在の都市



スポーツ空間としての
都市の可能性



© Fukuoka



アクティブライフデザインの事例：オープンスペースを活かした スポーツの場づくり

立体駐車場の屋上・側面
をトレーニング施設へ



© By & Havn / Peter Sørensen og COAST / Rasmus Hjortshøj



防音壁をクライミングウォールへ



鉄道を高架化し
高架下をオープン
スペースへ

Photo: Peter Cralke



小さな空き地をネットを活用し
て多様なスポーツ空間へ

Crédit photo : François-E. VIGNEAU

民地の駐車場を健康・スポーツの場に変える

- ・駐車場と官舎跡地を多機能を持つ場に再整備
- ・持続的に健康な場所をつくるためのプレイスメイキング



Before

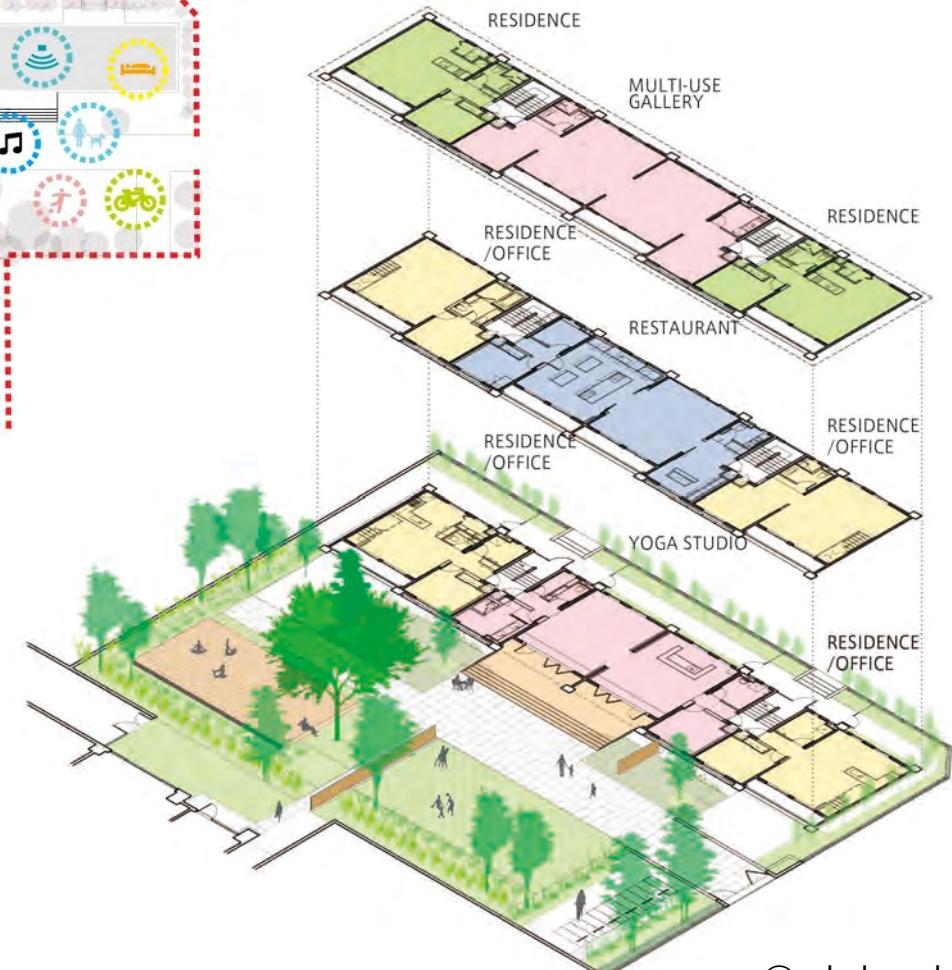
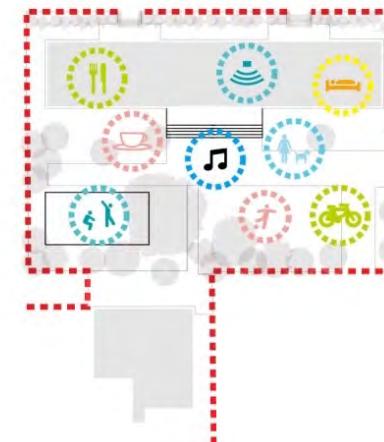
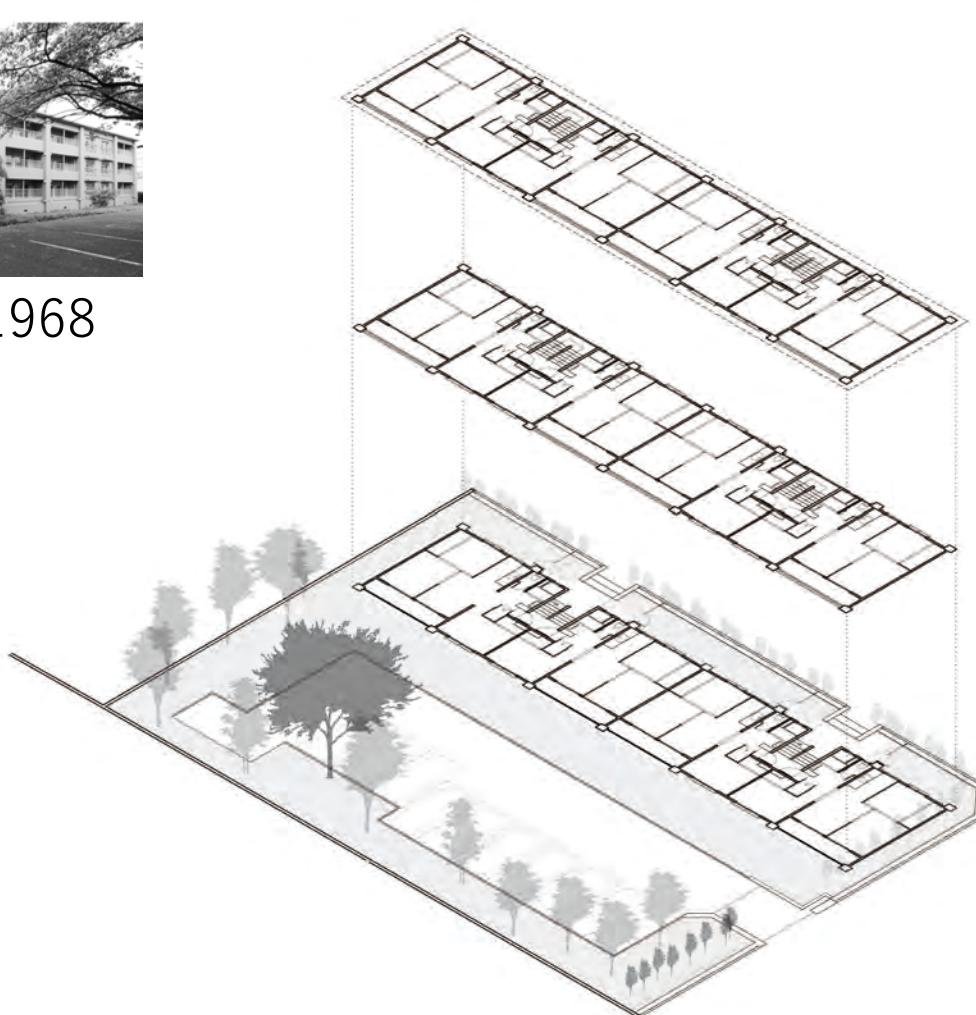


Courtyard HIROO

- ・アウトドアフィットネスとオープンスペースがキーワード
- ・多様な活動とプログラムを計画設計期間段階から事業者と議論



Built in 1968



体を動かしたくなるような場所をつくる

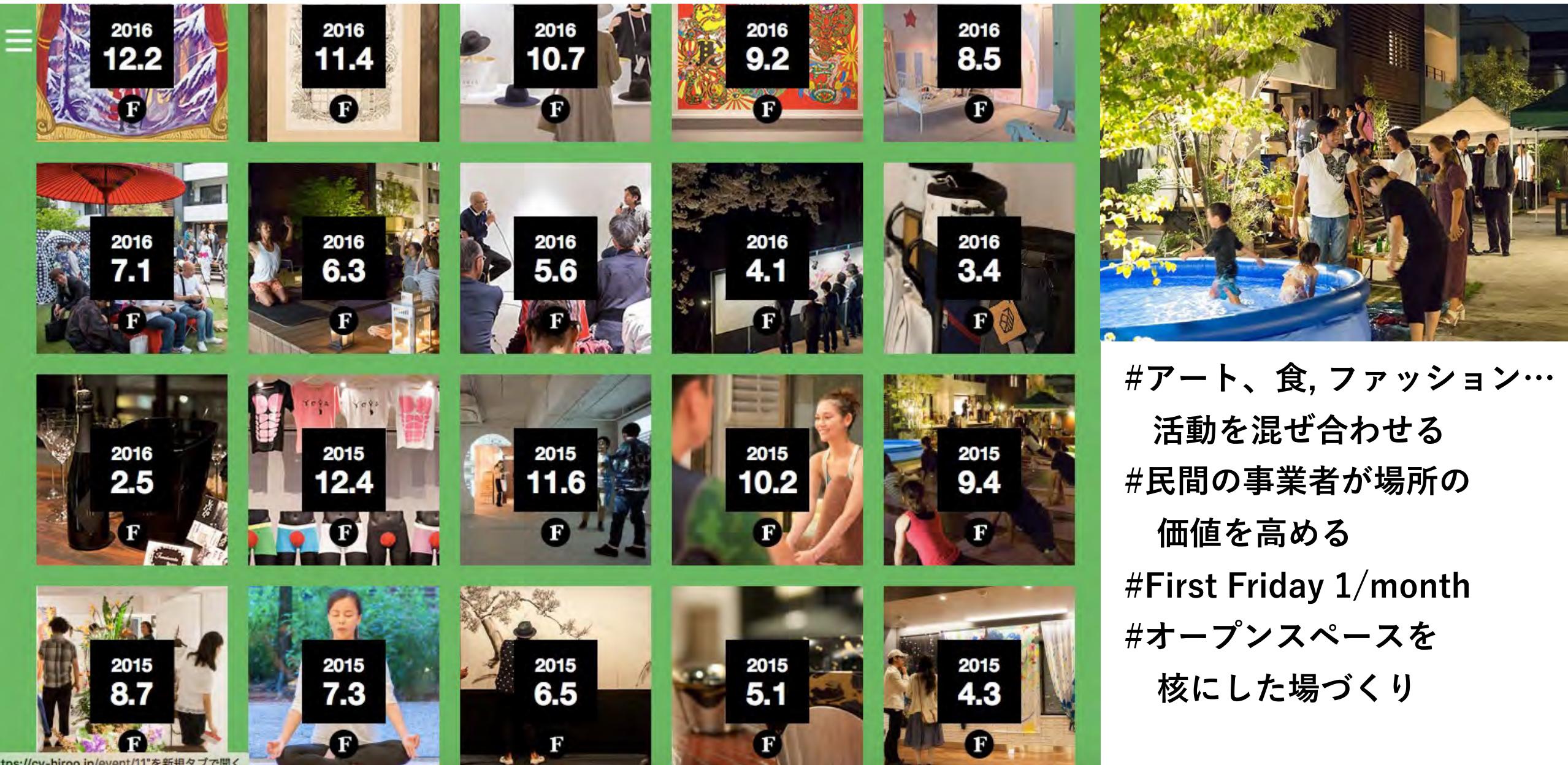


民地を‘半分ひらき’時には健康・スポーツの場に



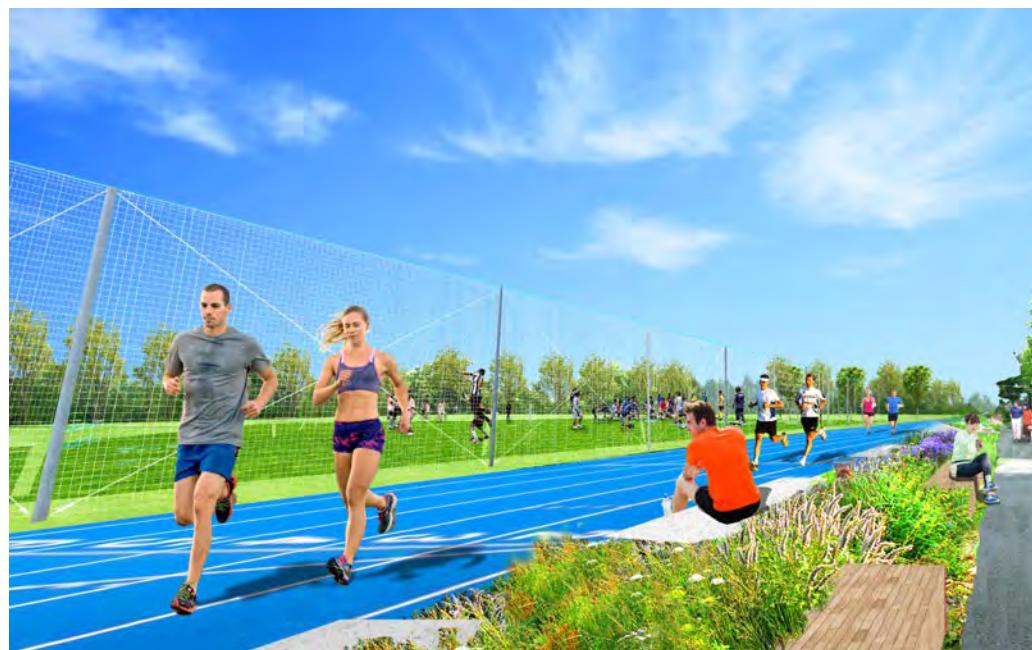
場所の編集: 人と場所をつなげるには?

- ・年間20,000人の訪問者に合わせた場所のマネジメントとは?



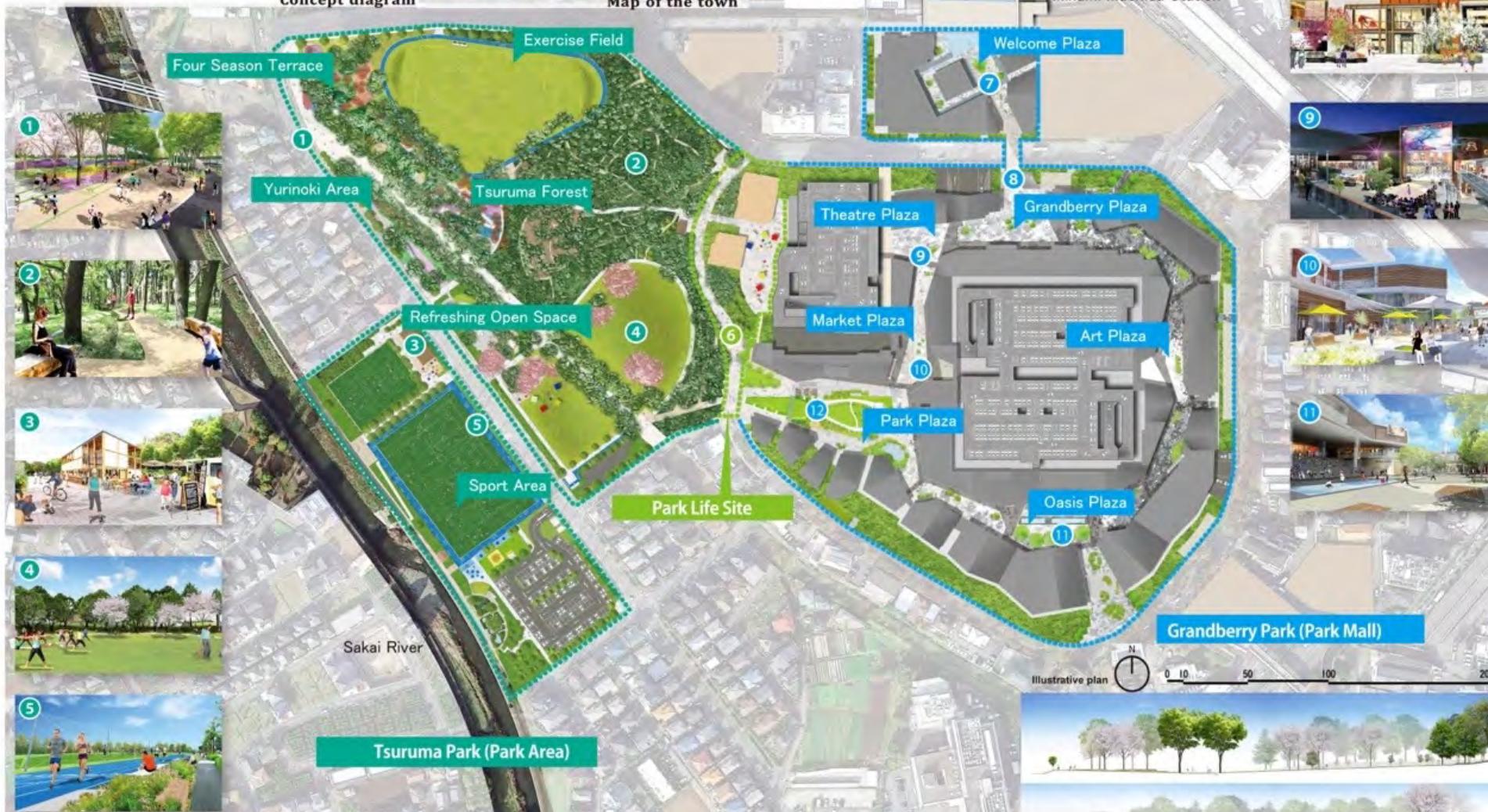
公民連携で【すべてが公園のようなまち】をつくる

- ・22ha の敷地：都市公園（運動公園）を核にした都市の再整備
- ・駅, 商業Commercial Area, Streets, Sports Park, planned with integrated approaches



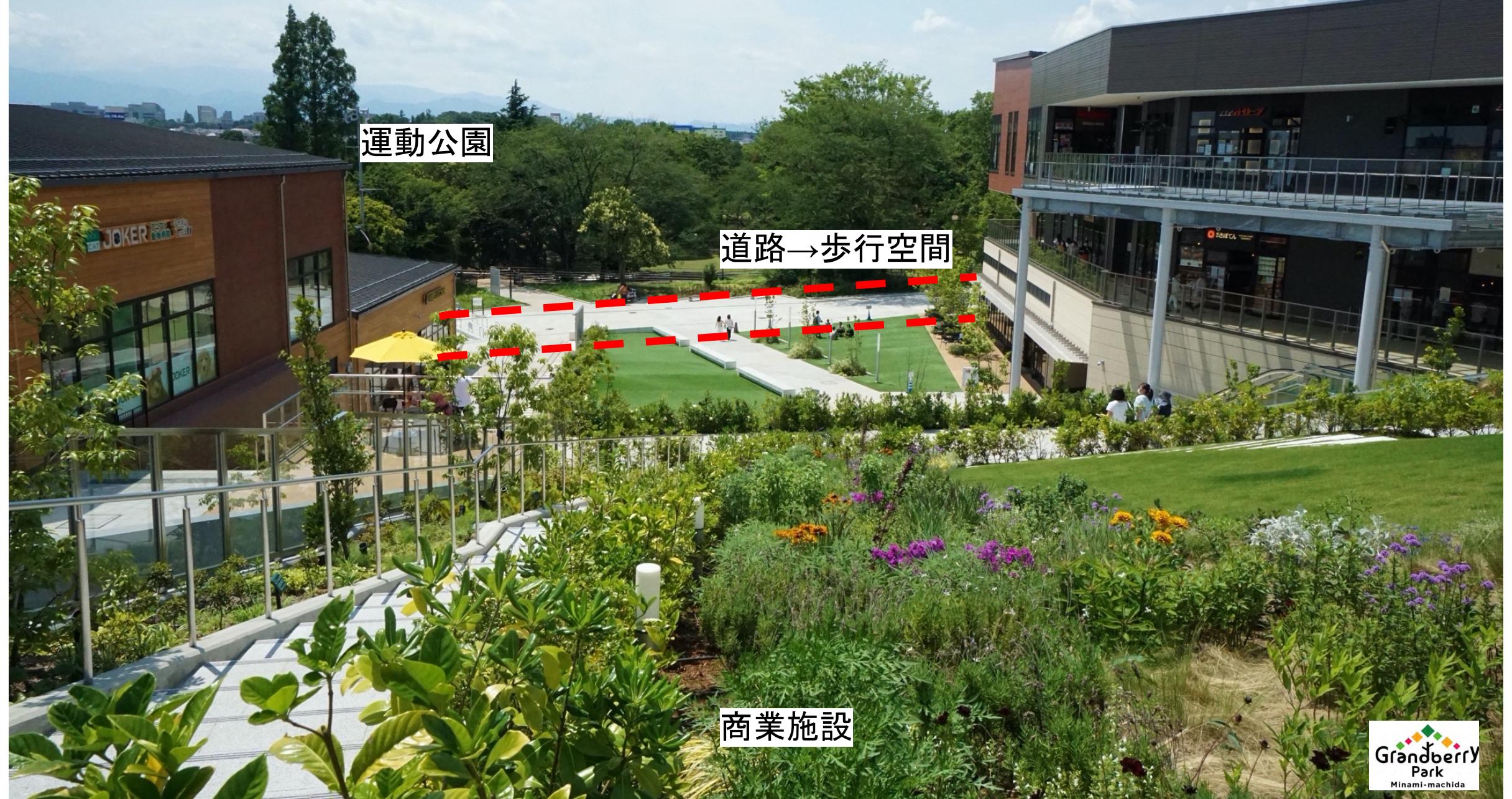
公民連携で【すべてが公園のようなまち】をつくる

Creating Livable, Healthy City



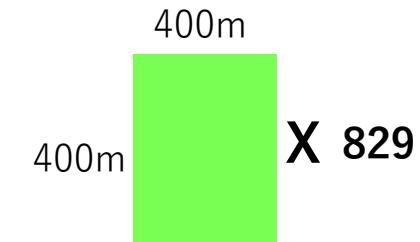
#ウォーカブルシティ
#道路を歩行空間に
#駅から川までの動線
#公園街区
14 のオープンスペース
7 民地
7 公園

公民連携で【すべてが公園のようなまち】をつくる



日本の運動公園

- ・運動公園は全国に829箇所（合計面積: 12,874ha, 平均面積：15.5ha）
- ・施設の老朽化、付帯設備の不足、施設・公園マネジメントの形骸化
- ・競技スポーツ施設主体の公園が多く、【すべての人が健康・スポーツを楽しめる場】になっていない



Before 鶴間公園再整備前
(野球とサッカーの練習場)



運動公園をひらく（鶴間公園）



Before



アクティブデザインをコンセプトにした運動公園

- ・ Active Designの実装、利用者が自然に動き、歩き、体を動かして遊べる場所へ
- ・ Active Designを意識した公園マネジメント：公園 x スポーツのマネジメント

アクティブデザインマップ ACTIVE DESIGN MAP

南町田グランベリーパークは、「心と身体が健康になる」をテーマに、誰もが気持ちのよいみどりの空間の中で、スポーツや健康づくりに楽しく取り組めるまちです。

木々に囲まれた芝生の広場でヨガをしたり、森の中を散歩したり、人工芝のグラウンドでスポーツの練習をしたり、川を眺めながらジョギングやストレッチをしてみたり…

あなたなら、このまちで、どんな風に身体を動かしてみたいですか？

Active Design Mapを使って、あなたのお気に入りの場所を探してみましょう！

アクティブウォール ACTIVE WALL

公園の中には、思わず身体を動かしてみたくなるアクティブデザインをたくさん用意しました。

それが5つあるアクティブウォールです。公園やまちのことを知り、そして、使いこなして、みんなで健康的な毎日を送りませんか？

1 INTRODUCTION WALL インテロダクション・ウォール

公園を中心とした、南町田グランベリーパークのアクティブデザインや活動イメージを紹介します。

2 PLACEMAKING WALL プレースメイクィング・ウォール

大きな看板に、まちの「新しい」（日目の）情報を載せて、お知らせします。高さを測るなど、大きなアクティビティができる場所



Active Designをコンセプトにした運動公園とは？

- ・ #日常的に多様な活動を許容する場のデザイン #機能をかけあわせる
- ・ #シームレスな動線計画 # 地域とつなげる

アスリート x スポーツを楽しむ市民



遊び場 x 居心地良く滞在する場所



テニス x カフェ・レストラン



スポーツを見る場所



スポーツ施設 x ランニング x 遊び場



公園 x 川



#1 Issues: 日本におけるスポーツ施設の現状

#2 Design: オープンスペースをスポーツの場に

#3 Process: 健康・スポーツのつながりをつくる

Sports and Health for All

スポーツ・フォア・オール

「人間はスポーツを行うことにより、人間が共同体を形成して営んでいくことに必要な社会性を、自ずと身につけることができる」

—ハンス・グロルー

「運動施設には、多様なバックグラウンドの人たちが同じ社会空間に集まって、競争や遊びや喜びをもたらす活動を通じて、他の場所では得られない人間関係を築くこと可能にする」

—エリック・クリネンバーグー

健康・スポーツの場の計画・設計・マネジメント

・ Active participation, Testing, Activity-driven Design, Bridge to Park Management



YR 2016

6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

計画段階



基本設計段階



YR 2017

6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

実施設計段階



マネジメントへ



将来の利活用を計画設計に統合する

- すべての可能なアクティビティを場所に描き、計画設計段階に将来の利用者と議論する

利活用を設計段階で検討



活動の視覚化



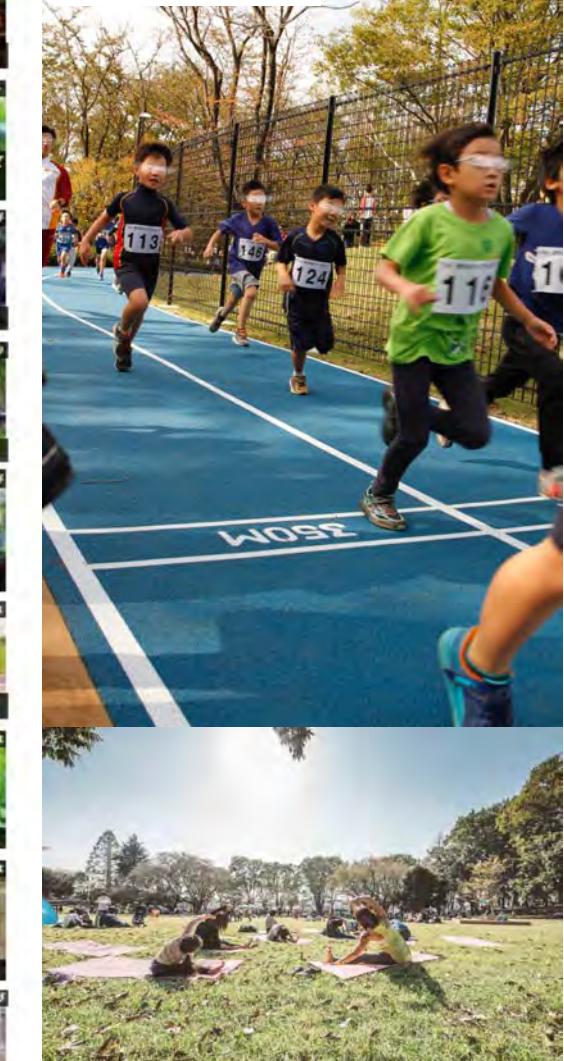
■ 融合ゾーンのバース



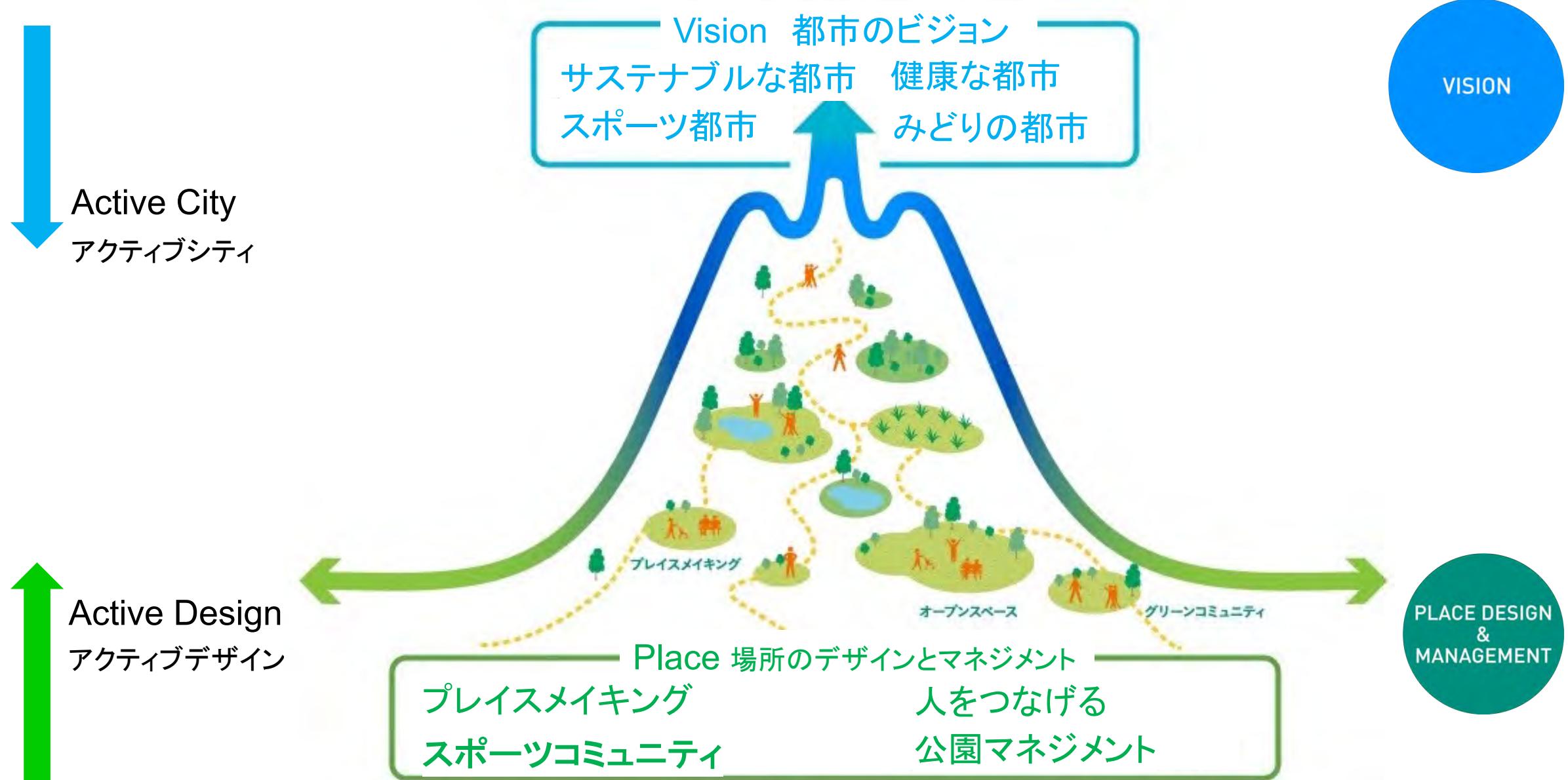
スケジュール活動のイメージ



現在の公園



都市スケールのビジョンと敷地スケールの取り組みのギャップに橋をかけるには？



A wide-angle photograph of a park at sunset. The sky is filled with large, colorful clouds in shades of orange, yellow, and blue. The park is filled with people walking, sitting on the grass, and some are near tents and picnic areas. The foreground is dominated by the branches of a large tree on the left. The overall atmosphere is peaceful and social.

Thank You!

IAKS日本支部
<https://iaks.sport/>



福岡孝則

tf206471@nodai.ac.jp

 IAKS 日本
International Association
for Sports and Leisure Facilities